

岐阜県立森林文化アカデミー 学校評価 平成 29 年度 自己評価報告書

1. 学校の教育目標

森林や木材に関わるさまざまな分野で活躍する人材を育成することを目的として総合的な教育を行う。

「森と木のクリエイター科」は、特定分野における高度な専門知識と、問題解決のための企画力、想像力をもったスペシャリストを養成する。

「森と木のエンジニア科」は、林業・林産業に関わる幅広い知識、技術を学んだうえで、現場で高い安全性と経済性を両立できる技術者を養成する。

県民を対象に楽しい学びを提供する「オープンカレッジ」や、専門技術者を対象に最新の知見や技術を提供する「専門技術者研修」など、幅広い活動を行う。

2. 本年に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

将来に対し県民から必要とされる森林文化アカデミーに進化するため、アカデミーの改革プランに基づき本年度は次の取組みを重点的に実施した。

(1) 専修教育部門における平成 30 年度カリキュラム編成方針の策定

編成方針に基づき科目を見直すとともに、30 年度のシラバスを作成

→ 教務委員会において、類似科目、必修科目、教員間のワークバランス等の見直しを行うとともに、シラバスの様式を見直し記載内容を充実させ、全教員との調整を図り、30 年度のシラバスを作成した。

(2) 学生の確保

平成 30 年度入学定員数の確保（クリエイター科 20 名、エンジニア科 20 名）

→30 年度の入学予定者はクリエイター科 24 名、エンジニア科 20 名を確保した。

(3) 就職指導強化

エンジニア科の県内就職率 80%以上

→ 今年度はあらたな取り組みとして、11 社による企業説明会や県内森林組合による合同説明会を開催したほか、個別企業による説明会（ランチミーティング）を 8 回（9 社参加）実施して就職指導を強化したが、エンジニア科の県内就職率は 53%に留まった。

これは、学生の県内出身率 61%が大きく影響していると考えられるが、今後も就職説明会等を充実させ県内企業への就職を促進するよう取り組む必要がある。

(4) ロッテンブルク大学との連携等

学生の派遣・受入れの適切な実施、ロッテンブルク大学教員の招聘

連携による学術プログラム及びコースの開発

日独林業シンポジウムの開催

→・学生の派遣

ドイツサマーセミナー参加 1 名 (9/17～9/24)

森林環境教育研修 6 名 (9/21～10/1)

・学生の受入れ

ロッテンブルク大学生 1 名が本学で研修 (8/21～9/29)

・日独林業シンポジウム、及び、森林施業、森林環境教育、木造建築、獣害
対策担い手育成の 4 つの分科会の開催 (11/6～11/9)

・ドイツの建築調査 (2/3～2/9)

本学で整備予定の森林総合教育センターの設計の参考とするため、ド
イツの環境教育施設や建築施設を調査

・森林環境教育調査・研修 (3/16～3/18)

同森林総合教育センターで実施するプログラムや、本学の環境教育で
活用するプログラムの調査、研修を実施

・ロッテンブルク大学連携協議等(2/24～3/3)

両校の教育連携について、今後の具体的な連携事業やスケジュール等
について、ロッテンブルク大学と協議を実施した。

・木造建築デザインワークショップ (2/26～3/4) の実施

当初、日独学生による共同ワークショップを企画したが、急遽ドイツ
側の都合により来日できなくなり、本学の学生のみで実施。

なお、実施結果はロッテンブルク大学と情報共有を図った。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
1. 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④	3	2	1
2. 学校における職業教育の特色は明確になっているか	④	3	2	1
3. 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが、学生や保護者等に周知されているか	④	3	2	1

①今年度の取り組み実績、課題、今後の改善方策

1.2.3 森林文化アカデミーは、「森林と人との共生」を基本理念とし、すべての人々が森林と親しく関わりを持ち、森林からの恵みを持続的に享受できる社会づくりを目指して、全国で初めての森林教育・学習機関として平成13年(2001年)に開学した。

本学には、現場で自ら行動できる技術者を育成する「森と木のエンジニア科」と、森と木に関わるスペシャリストを育成する「森と木のクリエイター科」があり、それぞれに求める人物像や学びの特色を明確にしている。

教育理念や目標、育成人材等については、利用者がより分かりやすくなるよう本学ホームページを大幅に見直して一般公開しているほか、学校案内にも具体的に記載している。

入学を希望する学生や保護者等には、オープンキャンパス、エブリデーオープンキャンパス(随時学校見学会)、学園祭、高等学校進路相談会等により広く案内している

②特記事項

本学の教育理念、教育方針をより明確にするため、平成29年度にディプロマポリシー(卒業認定方針)、カリキュラムポリシー(教育課程の編成・実施方針)、アドミッションポリシー(入学者受入れ方針)を策定し、本学ホームページで一般公開するほか、平成30年度学生募集要項に掲載している。

(2) 学校運営

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
4. 目的に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
5. 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
6. 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。有効に機能しているか	④	3	2	1
7. 人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1
8. 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
9. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
10. 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1

①今年度の取組み実績、課題、今後の改善方策

- 4.5 本学の運営方針、事業計画は、県予算資料で毎年度策定されている。また、所属目標として重点的に取り組むことが必要な目標や計画を策定している。特に重要な事項については重点施策に位置づけ、定期的な進行管理に努めている。
6. 本学の学則、経営会議規程、運営会議規程、各種委員会規程等を整備し、運営組織や意思決定機能を明確にしている。また、原則毎月1回経営会議、運営会議を開催し重要事項について意思決定を図っているほか、各種委員会や教職員会議を開催し教育内容の検討、情報の共有や周知を図っている。
7. 人事・給与等に関する規程は、県において整備されている。
8. 本学の処務規定を整備し、組織的な意思決定システムを整備している。
9. 対外的なコンプライアンスは県立学校として県に準じて整備している。
10. 本学の概要や教育方針、活動報告、キャンパスライフ等については、ホームページ上で常時公開している。

②特記事項

全教職員に対し、毎年度業績目標を定め、業績評価、能力評価を実施し、学校教育の改善に努めている。

(3) 教育活動

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
11. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
12. 学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
13. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発が実施されているか	④	3	2	1
14. 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
15. 授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
16. 職業教育に対する外部関係者からの評価を取入れているか	4	3	②	1
17. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
18. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
19. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
20. 関連分野における業界等との連携において優れた教員（非常勤講師等を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1

①今年度の取組み実績、課題、今後の改善方策

11. 森林文化アカデミー改革プランに基づき、エンジニア科は平成 27 年度から 2 年次を「林業コース」と「林産業コース」の 2 コース制とし、クリエイター科は平成 29 年度から「林業」「森林環境教育」「木造建築」「木工」の 4 専攻とし、各課程ごとに専門的な人材を育成することとする教育課程の編成・実施方針を策定した。
- 12.13 森林文化アカデミー改革プランに基づき、平成 28 年度、29 年度の 2 か年間でカリキュラム編成の見直しを実施した。これにより、教員間のワークバランスの調整、類似科目や履修者の少ない科目の統合、エンジニア科林産業コースのカリキュラムの充実、クリエイター科の必修科目の拡充を行った。
14. 現地現物主義として実践教育に重点を置いた教育体系を取っている。
企業インターンシップはエンジニア科では必須、クリエイター科では選択して実施

できるようカリキュラムが整備されている。

各分野の専門家や実務者を非常勤講師として招き、実践的な職業教育が受けられるよう体制整備がされている。

15. すべての授業について、学生アンケート（授業評価）を前期・後期ごとに授業終了後実施している。

授業ごとに13の質問項目を設定し、4段階で評価するとともに、改善点を記述するようにしており、その結果を教員に還元して授業改善に努めている。

16. 関係する業界等から意見・提言を取入れ、常に改善を行いながら授業や実習等に取り組んでいる。一方、学校評価に関して、これまで外部関係者による評価システムを取入れていなかったため、平成30年度から外部関係者による学校運営改革検討会を設置し、学校の運営改革等に努めることとしている。

17. 成績評価・単位認定・卒業要件は学則に規定するとともに、これらをガイドブックに記載し学生に配布して適切に運用している。卒業認定は卒業認定会議により審議・決定している。

18. 資格取得に関する案内は、ガイドブックに記載し学生へ配布して周知している。

資格取得にかかるカリキュラムを体系的に編成し、授業・実習を行うことで資格取得を促進している。また大型特殊やフォークリフト等外部機関による免許取得を促進するためカリキュラムの配慮や授業等による支援を行っている。

19. 林業、森林環境教育、木造建築、木工の4分野において、専門的知識・技術を有する専属の教員を17名確保し、教育を行っている。

20. 関連業界や各分野で活躍している専門家や実務者約75名を非常勤講師として招き、幅広く多様な教育を実践しているほか、各界で活躍している4名の専門家を客員教授として任命し専門的な立場からの教育に取り組んでいる。

②特記事項

本学を含む県内の農林系の県立専修学校3校について、運営体制や教育体制等の課題を共有し、その対策を検討する「岐阜県農林系県立学校運営改革検討会」を平成30年度早期に設立され、各学校の改革案を検討する計画である。

(4) 学習成果

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
21. 就職率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
22. 在学生、卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④ 3 2 1

①今年度の取組み実績、課題、今後の改善方策

21. エンジニア科では29年度卒業生のうち、未就職者が1名(3月16日現在)おり、就職率は94%である。直近3年間の就職率をみると、82%→100%→94%となり率としては高いものの、本来100%を目指すべきであることから、今後も企業等との調整を図り就職率を高めていくことが必要である。

クリエイター科では29年度卒業生のうち、未就職者が1名(3月16日現在)おり、就職率は95%である。直近3年間の就職率をみると、94%→78%→95%となっており、エンジニア科同様、今後も就職率を高めていくことが必要である。

なお、今年度は新たに、11社の企業の参加による企業説明会や県内の森林組合による合同説明会を実施したほか、個別企業による説明会(ランチミーティング)を8回(9社参加)実施し、学生の就職支援の強化を図った。

22. 在学生については、教育活動や社会活動等で他の模範となる学生を表彰する規程を設け毎年表彰しており、29年度は学長賞1名、学長奨励賞3名を表彰した。

卒業生の活動や取組みについて、可能な限り把握して本学ホームページや学校紹介パンフレット等において随時紹介している。また、卒業生とのネットワークを活用し、在学生の就職支援や研究活動支援等に役立てているほか、実務・実践者として本学の非常勤講師に任命し授業や実習を担当してもらっている。

②特記事項

特になし

(5) 学生支援

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
23. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
24. 学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
25. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
26. 学生の健康管理を担う支援体制は整備されているか	④	3	2	1
27. 保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
28. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1
29. 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか	④	3	2	1

①今年度の取組み実績、課題、今後の改善方策

23. 本学では、キャリア支援委員会を設け、各専攻の先生と連携し学生の就職相談や就職支援を実施している。また、授業でもキャリアデザイン、企業研修、インターンシップ等の就職支援授業を実施するほか、企業の担当者を招いて行う企業説明会を実施し就職活動につながる支援を行っている。
24. エンジニア科・クリエイター科の両学科主任のほか、エンジニア科では林業コース長・林産業コース長、及び各学年担任を、クリエイター科では4専攻主任を配置し学生の生活指導や相談体制を整備している。また学内に相談室を設け、専門カウンセラーによる相談を受けられる体制を整備している。
25. 本学単独の特別給費制度、県内金融機関3行による給付型奨学金制度、地元篤志家による給付型奨学金制度により学生への経済的支援体制を整えている。
また、国の青年就業準備金制度や日本学生支援機構の奨学金制度も採用し学生への支援を行っている。
26. 年1回の定期健康診断を義務付け実施している。また学内に保健室を設置し体調不良の際に利用できるよう体制を整備している。
27. 体調不良や怪我をした場合、適宜保護者へ連絡することとしているほか、問題のある学生に対しては、ただちに保護者へ連絡する体制を整備している。
28. オープンカレッジ（生涯学習）として一般市民を対象とした様々な講座や、専門家や本学学生を対象とした施業プランナー研修等の専門技術研修を実施しており、社会人向けの教育環境が整備されている。
29. 県内の3つの農林高校（岐阜、可茂、飛騨高山）との連携により、本学において林業の実践的な講義や実習を実施した。

②特記事項

特になし

(6) 教育環境

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
30. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 ③ 2 1
31. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④ 3 2 1
32. 防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1

①今年度の取組み実績、課題、今後の改善方策

30. 施設・設備については、本学の専修教育を実施する上で十分な規模を持ち整備されている。一方、開学から17年が経過し、屋外の木造個所や設備等に老朽化や不具合が発生しているが、予算上の制約もあることから、計画的な修繕に努めている。
31. 学内の実習施設や教育器材については、定期的な点検を行い安全性と機能を確保している。インターンシップについては、本学の制度として確立し、授業の一環として実施している。海外研修については、ドイツのロッテンブルク大学と教育連携により学生研修として実施しており、今年度もドイツのサマースクールや環境教育研修に7名の学生が参加した。
32. 学内緊急連絡網、本学消防計画を策定し防災体制を整備している。また、全教職員及び学生を対象とした火災訓練、消防署・警察との連携による緊急災害救助訓練を実施した。

②特記事項

特になし

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
	33. 学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2
34. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1

①今年度の取組み実績、課題、今後の改善方策

33. 資料請求者に対して迅速な情報提供（学生募集要項等の発送）、オープンキャンパスや学園祭での情報提供、全国での進学相談会、学校訪問による学生募集等により、適宜学生募集活動を実施した。

34. 学生募集時に、学校の特色、教育内容、卒業後の進路、取得資格等を記載した学校紹介パンフレットを配布し学校情報を正確に提供している。また、ホームページ上でも同内容を掲載し情報提供を行っている。

②特記事項

特になし

(8) 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
	④	3	2	1
35. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
36. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
37. 自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

①今年度の取組み実績、課題、今後の改善方策

35. 県が定める個人情報の保護規程に準じて本学で定めた手続きに基づき適正に対応している。
36. 平成 29 年度から自己評価を実施することとし、学内で設置している教務委員会で自己評価の検討を行い運営会議で実施する体制を整備した。また授業評価として学生アンケートを実施しており、この結果を自己評価に反映させるとともに、教員へ還元させ教育内容の向上に努めている。
37. 自己評価結果は速やかに本学のホームページで公開することとしている。

②特記事項

特になし

(9) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
38. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
39. 地域住民や県民、専門の実務者等に対する公開講座・教育訓練を積極的に実施しているか	④	3	2	1

①今年度の取組み実績、課題、今後の改善方策

38. 市町村連携事業として、本学と協定を締結した4市町に対して本学の技能やノウハウの提供、教員や学生の派遣を行い、市町の課題解決の支援を実施している。

受託研究(9件)や共同研究(1件)として、市町村や企業等から依頼を受け、課題解決のための研究や取組みを実施した。

地域の任意団体が実施する森のようちえん活動に本学の施設や森林を提供するとともに、本学教員による活動実施者への研修や活動支援を行っている。

39. 一般市民を対象としたオープンカレッジ(生涯教育)を、年間計画をたてて実施するほか、森林や林業の専門家に対する専門技術者教育を計画的に実施している。

②特記事項

特になし

(10) 国際交流

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
40. 留学生等の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1
41. 留学生等の学習・生活指導等について学内で適切な体制が整備されているか	④	3	2	1

①今年度の取組み実績、課題、今後の改善方策

40.41. ドイツのロッテンブルク林業大学と教育連携を結び、学生や教員の交流、共同研究や共同研修を実施している。

今年度は、ドイツで実施されたサマースクールに学生 1 名、森林環境教育の体験研修として学生 6 名を派遣し、それぞれ教員 1 名が引率し学生の研修を支援した。

またロッテンブルク林業大学から研修学生 1 名を 40 日間本学に受入れ、本学学生とともに授業や実習を行った。なお、研修学生については、本学のコテージ施設で宿泊し、研修学生のための研修計画を策定し本校教員が分担して研修を実施した。

今年度は本学学生に留学生が 1 名在籍していたが、語学力・能力ともに問題がないことから、他の学生と同レベルでの学習・生活指導等を行った。

木造建築分野では、日独学生共同による木造建築デザインワークショップを計画したが、急遽ドイツ側の都合により訪日することができず、本学学生単独によるワークショップとなった。このため、本ワークショップ内容をロッテンブルク大学へ情報提供し、教育連携として成果の共有を図った。なお、翌年度はドイツにて同様のワークショップを計画しており、本学から学生を派遣する予定である。

森林環境教育分野では、翌年度にロッテンブルク大学から教員を招聘し、森林環境教育実践者向けの連携セミナーを開催する計画である。

②特記事項

特になし